

# 令和2年度長野県美術教育研究会下伊那大会研究テーマおよび研究の方向

下伊那支部

全県研究テーマ 「ひびき合う感性 『私っていいな!』 楽しく“子どもアート”」

下伊那大会テーマ 「思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク」  
～自分らしさを楽しむ授業へ～

## 1 下伊那大会テーマ設定について

### 〈北安曇・安曇野大会を受けて〉

昨年度、北安曇・安曇野大会では、「伝え合い、つなげてみよう」～対話的で創造的な学びを求めて～とし、友達同士の対話、自己や作品との対話を授業の中で位置づけることで、さらに創造的な学びの姿を実現しようと研究を進め、新学習指導要領との関連も大切にしながら、図画工作・美術科の授業の在り方を提案していただきました。

本年度から施行された新学習指導要領の改訂の趣旨には「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断・表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育てること…」とあります。そこで、本年度下伊那大会では、このような児童・生徒を育成するために、感性を働かせながら、自分らしい表現や鑑賞の力を育み、それらの活動を楽しむことで、全県研究テーマにある「私っていいな」という自己肯定感を持つことができるような授業を目指していきたいと考えています。

### 〈下伊那での研究から見えてきていること〉

昨年度は、児童生徒同士で自然な関わり合いの中で情報交換をすることが、自己の構想を変化させたり、試行錯誤しながら、表現が高まっていったりすることに有効であることが実証されました。鑑賞の場面でも友との学び合いから得られた気づきを、鑑賞している作品に戻って、再度確認し、自分の見方に反映させていく姿を確認することができました。このように、子どもたちが互いに関わり合う授業の中で、学びが深まり、成長や成功を自覚することで、いっそう主体的な学びに向かおうとする姿につながっていくことが明らかとなっています。

友とのかかわりによる学びの深まりを、より本人の思いに結びつけたものにするために、友から学びながらも模倣や寄せ集めにならず、「私っていいな」となるように、作品制作の出発点は「主題」からということを確認したいと思います。対話的な授業の中で、主題をもとに児童生徒が創意工夫しながら活動したり作品を制作したりする姿を目



指していきたいと考えます。

本年度は感染症の影響で、昨年度の成果である友との自然な関わりを持てる場を、積極的に取り入れていくことが難しくなっています。そのため、自分の思いに迫る、もう一方の側面として考えている、「自分の中での、思いや作品との対話」にも焦点を当てていきたいと考えています。7月の事前授業では、各校通常の授業も難しい中、対策をし、できる範囲で工夫をした授業作りをしていただきました。友との対話の場面は少なくなっただけかもしれませんが、主題を意識した展開、教師からの働きかけ、学習カードを中心に、子どもの「思い」に寄り添った学習にしていけるように、研究を深めていきたいと考えています。

### ＜「思い」と造形ネットワークについて＞

「主題」を少し幅広くとらえられる「思い」という言葉にし、作品作りの出発点としての「思い」を持つこと、（新学習指導要領では「主題を生み出すこと」と明記）や、制作を通して変わっていくであろう「思い」をつなげていくこと、また・素材・友との対話によって知識や見方・感じ方が広がって、自分の追求にもフィードバックしていくこと。これらの造形活動に関わる相互の関わりを「造形ネットワーク」という言葉で表し、一人ひとりが経験によって組み立ててきた造形ネットワークを、自由に活用できるようになっていくことで、深い学びを実現し、「思い」の達成につながっていくと考えます。さらに、その「思い」をもとに、児童生徒同士が相互評価したり教師が作品の評価をしたりすることが、結果や出来栄えにこだわりがちになってしまう授業から、「自分らしさを楽しむ授業」へと向かっていけるのではないかと考え、本研究テーマを設定しました。

## 2 研究の方向

- ①一人ひとりが「思い」を持つことのできる題材・導入の工夫。
- ②思いを表現に結び付ける手立ての在り方。
- ③思いの深まりや変化が確認可能な学習カードの工夫。
- ④思いを広げる「対話の時間」の設定と環境づくり。
- ⑤作者の「思い」をもとに話し合える鑑賞の時間。

※造形遊びでは、題材導入部で思いをいだかせておくことはせず、素材と対話しながら、活動を進める中での一瞬のひらめきから、「思い」が発生するよう、導きたいと思います。